Panasonic

施工説明書

トリプルセンサー水栓

品番 S01E10TUA1 （一般地仕様）
S01E10TUAZ1（寒冷地仕様）

■もくじ

安全上のご注意	2
施工上のお願い	4
本製品の仕様と条件	5
付属部品一覧表	6
各部のなまえ	7
施工前の準備	7
寸法図	8
施工のしかた	9
施工後の確認	16

■ 施工説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。
特に「安全上のご注意」（2〜3ページ）は、施工前に必ずお読みください。

● 配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。
なお、シンクの種類、フロアユニットの組み合わせによって、配管接続方法が異なりますのでご注意ください。

■ 施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■ 最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）は、必ず行ってください。

■ 施工終了後、取扱説明書（保証書付き）・使いかたタグは、必ずお客様にお渡しください。

■ 梱包材や残材は「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

⃠	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。

⚠警告

全　般

禁止

- **●浴室などの湿気の多い場所には、設置しない**
- **●分解したり、修理・市販浄水器具の取り付けなどの改造をしない（指定された配管部などは除く）**
- **●湯水を逆に配管しない**
  （水を出そうとしても湯が出てやけどの原因）
  （必ず、給水配管が右側、給湯配管が左側に配置されていることを確認してください）
- **●配管などの解氷のために解氷機を使用する場合、水栓や配管には絶対に通電しない**
  （水栓や配管が発熱し、火災ややけどの原因）
  （漏水による財産損害発生の原因）
- **●寒冷地仕様の場合、配管が熱い状態で水抜き栓を開けない**
  （高温のお湯が出て、やけどの原因）
- **●水につけたり、水をかけたりしない**
  （感電・発火・ショート・故障の原因）
- **●水栓に鋭利な物や硬い物などをぶつけたり、落としたりしない**
  （めっき表面の割れ、けがの原因）
  （漏水による財産損害発生の原因）
- **●めっきの表面が割れた場合は使用しない**
  （けがの原因）（新しい部品に交換してください）
- **●温泉水、井戸水、地下水で使わない**
  （水質によっては機器内の配管に異物が付着したり、腐食して水漏れの原因）

必ず守る

- **●寒冷地仕様の場合、水抜きをする時のみ水抜き栓を開ける**
  （漏水による財産損害発生の原因）
- **●水圧変動をおさえた配管設備にする**
  （他所の水栓の使用などにより、水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、やけどの原因）
- **●電気工事は関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行う**
  （発火・火災・感電の原因）

電　源

禁止

次のことをしない
（感電・ショート・火災の原因）

- **●がたついたコンセントを使用しない**
- **●ぬれた手で電源プラグを触らない**

電源コード・電源プラグは

- **●傷つけたり、加工したり、束ねたりしない**
- **●無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない**
- **●熱器具に近づけたり、重い物を載せたりしない**
- **●傷んでいるときや、コンセントへの差し込みが緩いときは使用しない**

必ず守る

次のことを守る
（発火・火災・感電の原因）

電源は

- **●必ず交流100Vを使用する**
  （過電流による火災の原因）
- **●必ず適正配線された屋内配線またはコンセントから取る**

電源プラグは

- **●根元までしっかりコンセントに差し込む**
- **●ついたほこりは必ず取り除く**
  （ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良による火災の原因）
  （電源プラグを抜いて、乾いた布でふいてください）

- **●電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って抜く**

⚠注意

施工前に

必ず守る

●**推奨工具で確実に締め付ける**
（締め付けが足りなかったり、締め付けすぎたりすると、漏水による財産損害発生の原因）

●**取付設置は、この施工説明書に従って、確実に行う**（漏水による財産損害発生の原因）

全　般

禁止

●**上下戻り配管をしない**
（ウォーターハンマーなどで給湯･給水ホースが振動した際、屈曲部から漏水し、財産損害発生の原因）

●**配管接続部をテーパーねじに接続しない**
（接続部が緩んだり、パッキンが切れたりする原因）
（漏水による財産損害発生の原因）

●**給湯温度は85℃以上で使用しない**
（水栓が破損し、やけどの原因）
（漏水による財産損害発生の原因）

●**水栓に強い力や衝撃を与えたり、もたれかかったりしない**
（水栓が破損し、漏水による財産損害発生の原因）

必ず守る

●**水栓本体の固定は同梱の専用工具を使用して本体を保持しながら行う**
（吐水口やスパウトを持って締め付けると破損し、漏水の原因）

●**給湯温度は60℃以下に設定する**
（60℃より高温で長期使用すると、部品の劣化などの原因）（漏水による財産損害発生の原因）

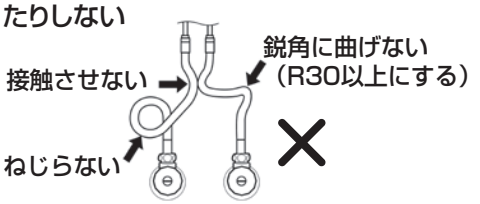
●**ご使用の前に適温であることを確かめる**
（高温の湯が出てやけどの原因）

●**電源ボックス支え金具は必ず水平に取り付ける**
（漏水検知機能が正常に作動しない原因）
（寒冷地仕様での水抜きができず、凍結破損による水漏れの原因）

給湯・給水ホース

禁止

●**鋭角に曲げたり、根元で曲げたりねじったりしない**



●**壁に接触させない**

●**電源コード･ハーネスと接触させない**
（故障･感電･火災の原因）（亀裂や破損をおこし、漏水による財産損害発生の原因）

必ず守る

●**小型電気温水器（即湯器）などに給湯ホースを接続する時は、フレキ管などを介す**
（高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなる原因）
（漏水による、財産損害発生の原因）

凍結防止

必ず守る

凍結が予想される場合は、次のことを守る

●**一般地仕様の場合でも、配管部に布を巻くなど凍結防止をする**
（凍結破損し、漏水による財産損害発生の原因）

●**お客様に引き渡す前は水を抜いておく**
（凍結破損し、漏水による財産損害発生の原因）
（寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください）

点　検

必ず守る

●**給湯･給水ホースの接続が確実であることを確認する**
（ホースが外れ、亀裂や破損をおこし、漏水による財産損害発生の原因）

●**水栓本体取り付け後、配管接続部および水栓からの水漏れがないことを確認する**
（漏水による財産損害発生の原因）

●**水栓がカウンターに確実に固定されていることを確認する**
（がたつきが発生して、漏水による財産損害発生の原因）

●**止水栓がしっかり固定されていることを確認する**
（給湯･給水ホースが抜け、漏水による財産損害発生の原因）

●**シャワーホース接続後、スライダーが上がっていること、カプラーを下に引っ張って外れないことを確認する**
（漏水による財産損害発生の原因）

●**最終点検時、混合水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検を十分に行う**
（漏水による財産損害発生の原因）

●**止水栓取り付け個所や給湯･給水管との接続個所は、点検口を設けるなど点検をしやすい状態にする**
（漏水発見が遅れて、財産損害発生の原因）

施工上のお願い

施工前

■配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。
なお、シンクの種類、フロアユニットの組み合わせによって配管接続方法が異なります。

■梱包のダンボールなどを用い、養生してください。

■取り付け途中でも、部品や工具の落下などによる傷や破損防止のため、製品の表面など部分的に養生してください。

■必ず水栓、付属の配管部材をセットでご使用ください。

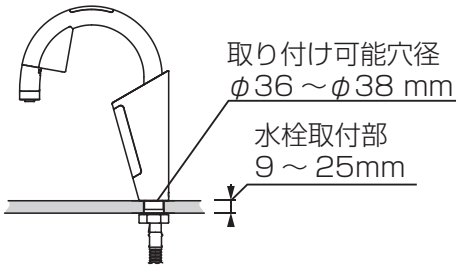
■取り付けには水栓本体締付用工具*、プライヤー、プラスドライバー、マイナスドライバーが必要です。
*推奨工具品番　対辺 47mm：SEG11　または
対辺 45mm：TK01X7287

■水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。

■赤外線を発する機器に近づけると誤作動する場合があります。機器を水栓から遠ざけてください。

■日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因になります。日光を遮ってご使用ください。

■水栓取付部が厚さ 25mm を超える場合は、取り付けができません。



■取付後の流量調整や保守点検のために、必ず止水栓（現場調達）を設けてください。

■カウンターやシンクに穴をあけるときは、裏側に固定金具などがないか確認してください。

■水栓取付部に裏板がない場合は、9 ～ 25mm の厚みになるよう裏板（現場調達）などで補強してください。

■器具内に水が残っている場合がありますが、通水検査によるもので製品には問題ありません。

■電源線はφ1.6mm またはφ2.0mm 以上のものをご使用ください。（現場調達）

■電気工事は必ず電気工事「有資格者」に依頼してください。

■コンセントは、電源プラグの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
※隠ぺい部には設けないでください。

施工中

■製品の表面は直接工具でつかまないでください。
※工具でつかむ場合には、必ず製品に布などを当てて保護してください。

■開梱、取り付けの際には製品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。

■センサーの窓を傷付けないように十分にご注意ください。

■吐水口をホースなどで延長しないでください。
（故障の原因となります。）

■水質によっては、機器内の配管に異物が付着したり、腐食して水漏れすることがあります。

■給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆に配管すると表示通りに湯が出ません。

■ストレーナー付パッキンは、正しい向きで取り付けてください。ごみ詰まりの原因となります。

■給湯器からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

施工後

■必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

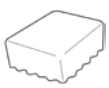
■使い勝手や性能発揮のために流量調整をしてください。
特に水圧が高い場合など、流量調整がされていないと漏水・破損のおそれがあります。

■給水圧力が 0.3 MPa から 0.75 MPa までは、止水弁で流量調整してください。
給水圧力が 0.75MPa を超えるときは、市販の減圧弁で、0.2 ～ 0.3MPa に減圧してください。

お手入れ

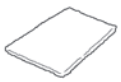
○ 使える洗剤・道具

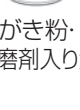
柔らかい布


スポンジ

台所用洗剤
（中性）

× 使えない洗剤・道具


ナイロンたわし


みがき粉·
研磨剤入り洗剤

シンナー·
ベンジン

酸性洗剤・
アルカリ性洗剤・
塩素系洗剤・
漂白剤

本製品の仕様と条件

部位		仕様
給水・給湯圧力	最低必要水圧	動水圧　0.05MPa
	最高水圧	静水圧　0.75MPa
	推奨使用水圧	0.2～0.3MPa
給湯温度	最高温度	85℃以下
	推奨温度	50℃以下
使用可能水質		水道水（※1）
用途		家庭用
電源電圧		AC100V　0.26A　50/60Hz
消費電力	待機時	約0.7W（電源を接続した状態で「切」の時）
	吐水時	通常モード：約7.0W　　節水モード：約7.7W
	ピーク時	約20W（節水モードで吐水中に流量／温度調整ボタンを操作した時）
給水給湯接続		G1/2
取付条件		水栓取付穴：φ36～φ38mm、カウンター厚：9～25mm
電源コード長さ		1.0m
高温止水機能（節水モード）		この製品は、安全のため高温止水機能を内蔵しています。 節水モードでは、高温のお湯（約55℃以上）を出そうとすると自動で止水します。 高温のお湯（約55℃以上）をお使いになる場合は、通常モードでお使いください。 ※通常モードでも高温のお湯（約55℃以上）を使っている間は温度調整ランプが点滅します。（水温が約40℃以下に下がると点灯状態になります。）

※1　温泉水、井戸水、地下水は機器に悪影響を及ぼす可能性があるため、使用しないでください。

ガス給湯器（比例式制御式：16 号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A＋0.07MPa（流動圧）　※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最高圧力	0.75MPa（静水圧）

測定条件は次の通りです。

- ●流量は右端（流量全開位置）
- ●給水温度 5℃、吐出温度 42℃（ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定。）
- ●給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.07MPa（流動圧）
最高圧力	0.75MPa（静水圧）

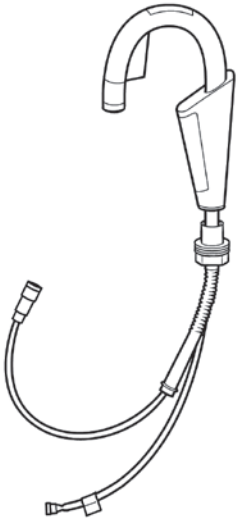
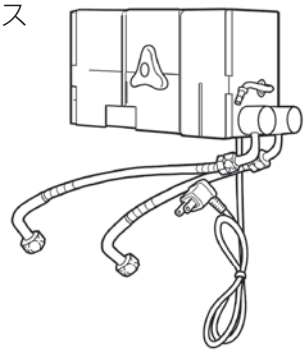
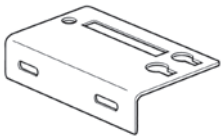
- ●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

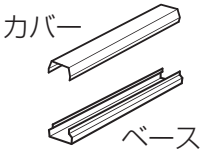
その他の条件

- ●設定温度が 60℃以上で、設定温度が変更できない給湯器には接続できません。
- ●不意の出湯によるやけど防止のため、給湯器の設定温度は 50℃以下をおすすめします。

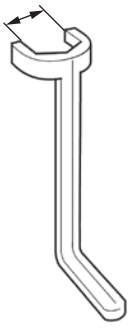
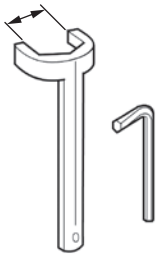
付属部品一覧表

［寸法単位：mm］

部材・部品名	入り数
水栓本体 	1
電源ボックス 	1
電源ボックス取付用ねじ トラス ⊕ φ4×15	1
電源ボックス支え金具 	1
電源ボックス支え金具取付用ねじ トラス ⊕ φ4×15	2
コンセントボックス	1

部材・部品名	入り数
（水栓左右取り付け時に使用） ホースガイド	1
（水栓センター取り付け時に使用） ホースクリップ	1
ホースクリップ取付用ねじ トラス ⊕ φ4×15	1
ハーネス固定用クリップ	1
配線カバー  L＝150 粘着テープ付	1
水栓本体固定用工具	1
使いかたタグ	1
取扱説明書	1

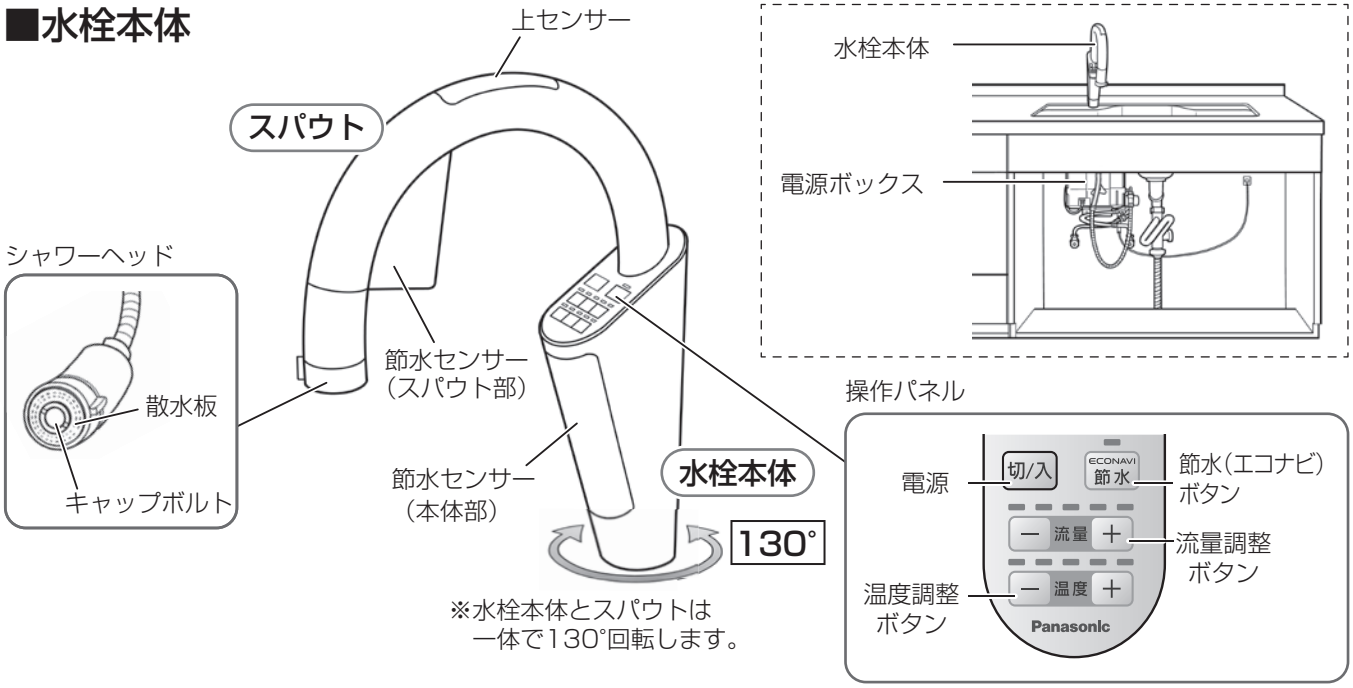
■別売品（補修部品扱い）

推奨工具品番： SEG11	推奨工具品番： TK01X7287
対辺47mm 	対辺45mm 

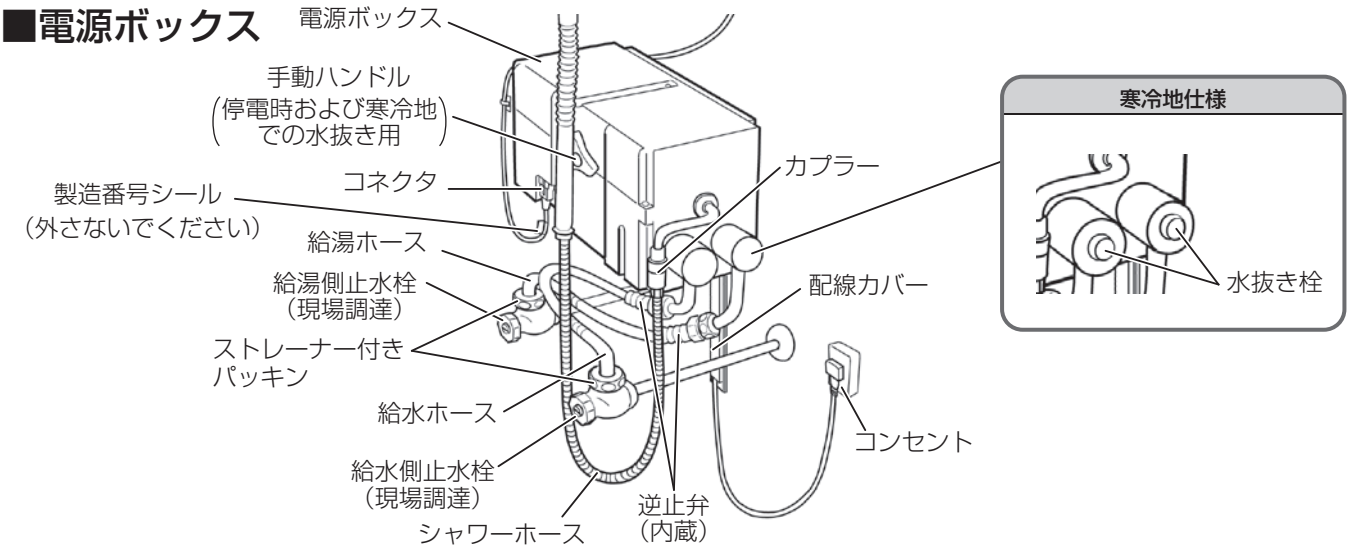
各部のなまえ

一般地仕様を例に説明しています。

■水栓本体



■電源ボックス

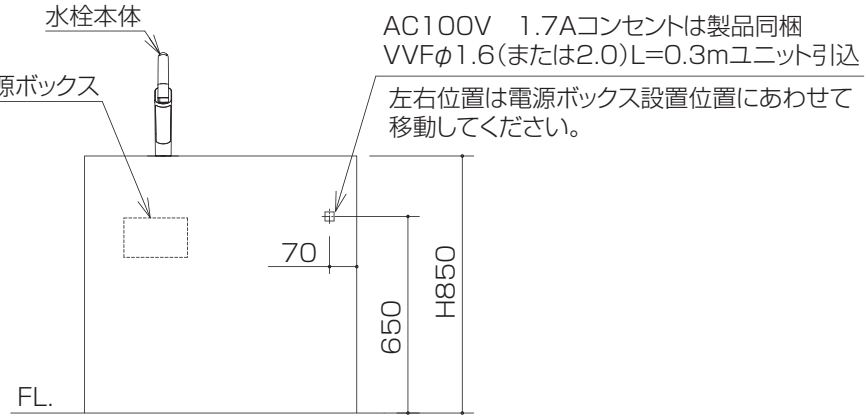


施工前の準備

［寸法単位：mm］

■コンセントの取り付け位置

※カウンター高さ850の場合。
カウンター高さに対応して、
位置は変わります。

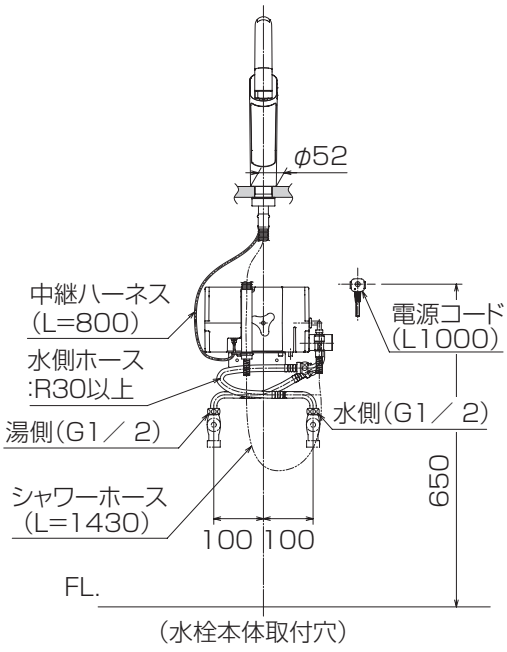


寸法図

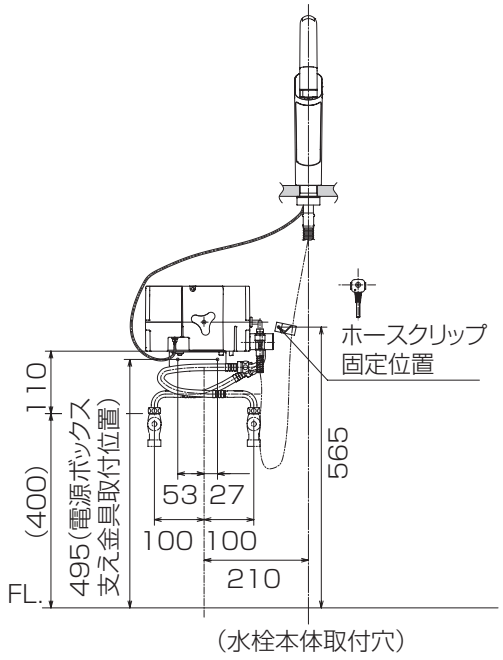
※カウンター高さ850の場合。
カウンター高さに対応して、位置は変わります。

［寸法単位：mm］

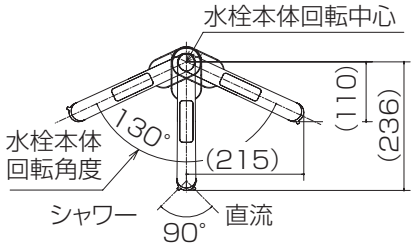
水栓左右取り付けの場合

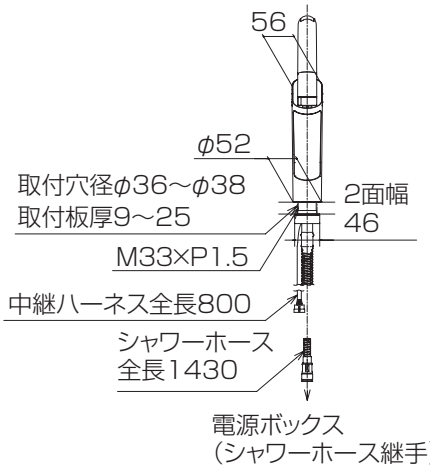


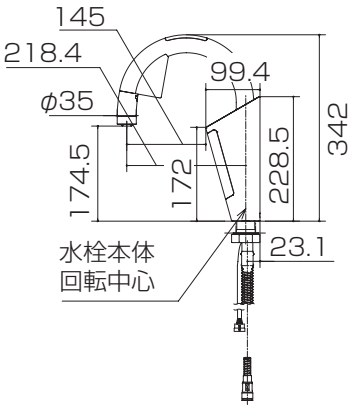
水栓センター取り付けの場合



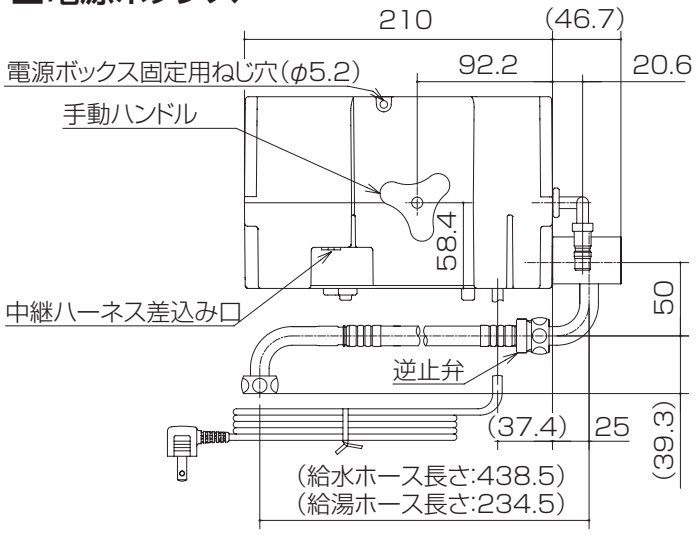
■水栓本体

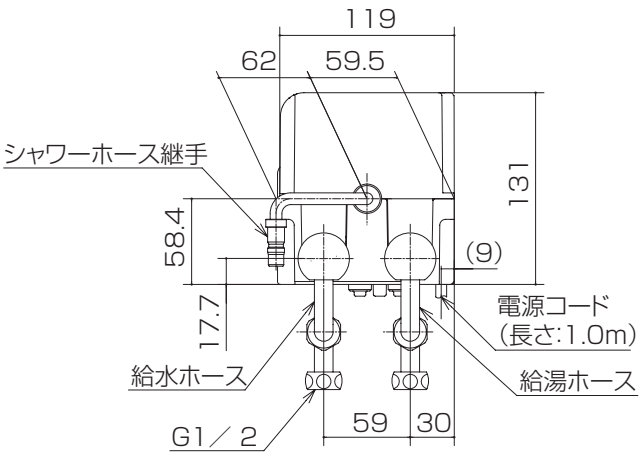






■電源ボックス





施工のしかた

1 給湯・給水管内の清掃

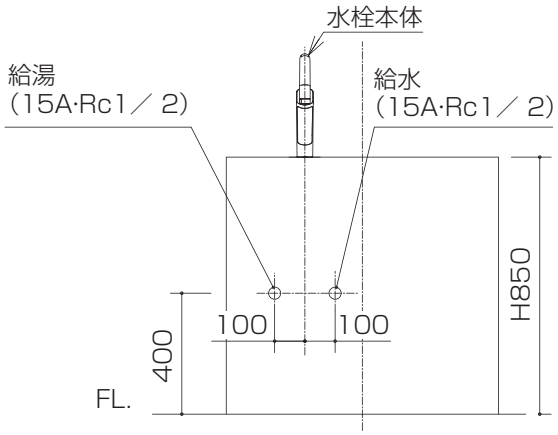
取り付ける前に、必ず給湯・給水配管内のごみ、砂などを十分に洗い流してください。

2 止水栓（現場調達）の取り付け

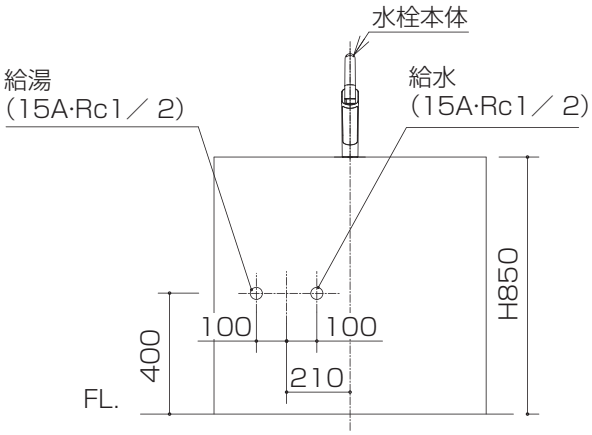
［寸法単位：mm］

給湯管と給水管の間隔を200 mm程度にして、取り付けてください。
※図はカウンター高さ850の場合。カウンター高さに対応して、給水・給湯位置も変わります。

水栓左右取り付けの場合



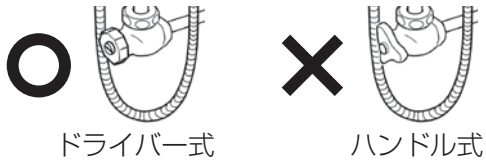
水栓センター取り付けの場合



■止水栓（現場調達）について

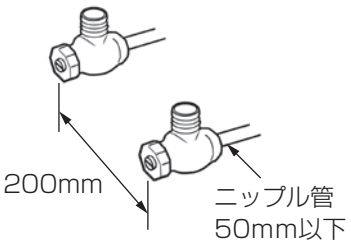
●止水栓はストレーナー付きが最適です。

●ドライバー式の止水栓を取り付けてください。
（ハンドル式はシャワーホースがハンドルに干渉する場合があります。）

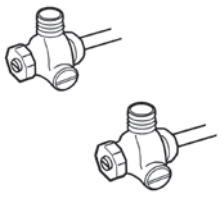


●寒冷地用は、水抜き栓付き止水栓を取り付けてください。

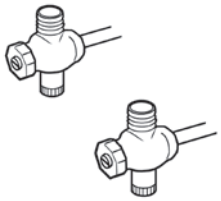
〈壁給水仕様〉



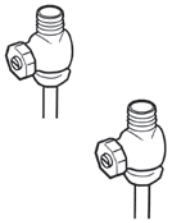
〈ストレーナー付き仕様〉



〈水抜き栓付き（寒冷地仕様）〉



〈床給水仕様〉

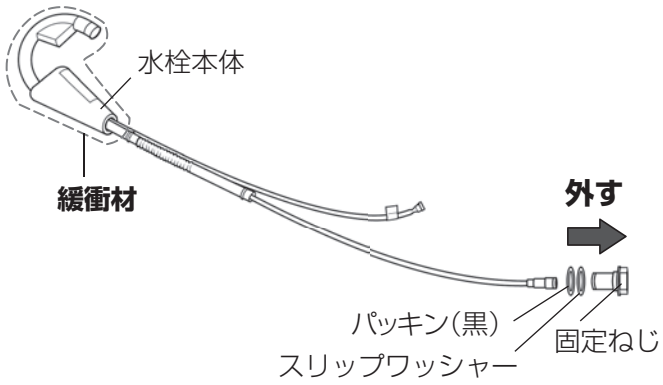


3 水栓本体の取り付け

1. 水栓本体からパッキン(黒)、スリップワッシャー、固定ねじを取り外す。

お願い

- 取り付け途中でも、部品や工具の落下などによる傷や破損防止のため、製品の表面など、部分的に養生してください。
- **水栓本体にかぶせている緩衝材は仮固定まで外さないでください。**

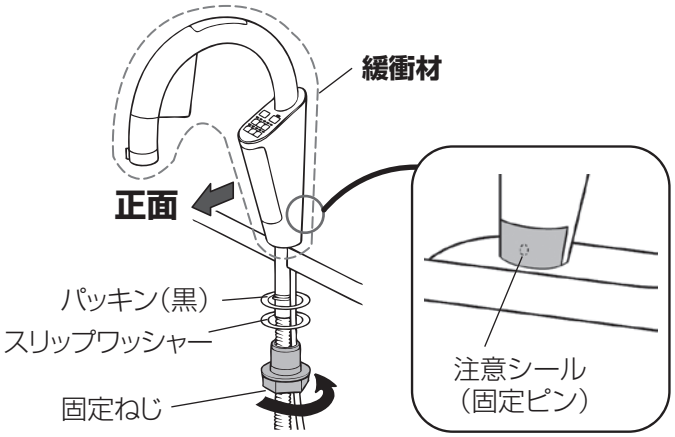


2. 水栓本体をカウンターの取り付け穴に入れる。

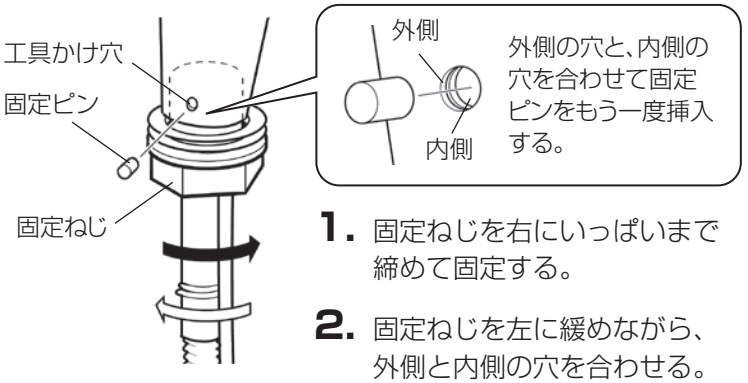
※水栓本体を正面に向けてください。

3. カウンター下からパッキン(黒)、スリップワッシャー、固定ねじで仮固定する。

※水栓本体背面の注意シールと固定ピンは外さないでください。



固定ピンが外れたときの戻しかた



1. 固定ねじを右にいっぱいまで締めて固定する。

2. 固定ねじを左に緩めながら、外側と内側の穴を合わせる。

⚠注意

必ず守る

水栓本体の固定は同梱の専用工具を使用して本体を保持しながら行う

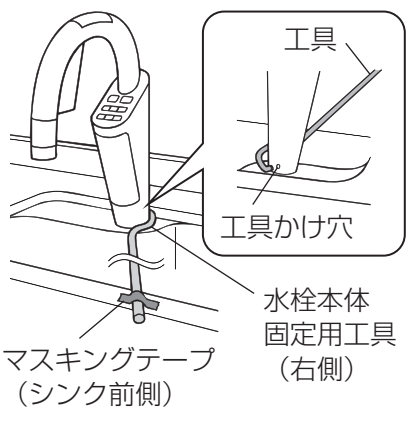
(吐水口やスパウトを持って締め付けると破損し、漏水の原因)

4. 水栓本体背面の注意シールをはがし、固定ピンを抜く。

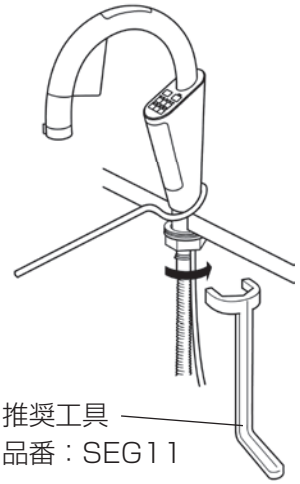
※仮固定後は、固定ピンを使用しません。

5. 水栓本体固定用工具を、工具かけ穴(固定ピンがあった穴)に差し込んで、固定する。

※工具は必ず水栓本体の右側に取り付けてください。



6. 推奨工具:SEG11(別売)を使用して、固定ねじを確実に締めつける。



施工のしかた

4 電源ボックスの取り付け

［寸法単位：mm］

1. キャビネット背板に電源ボックス支え金具を取り付ける。

※φ3の下穴をあけて確実に取り付けてください。

※電動ドライバーが入らない場合は、手締めで確実に取り付けてください。

⚠注意

必ず守る

電源ボックス支え金具は必ず水平に取り付ける

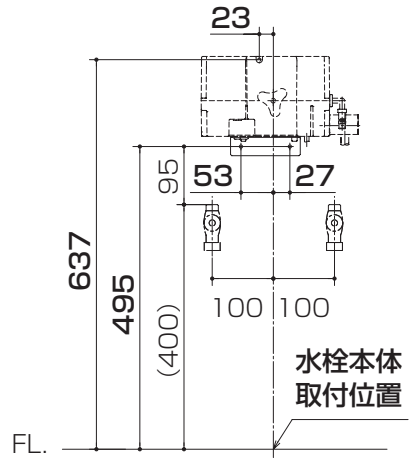
（漏水検知機能が正常に作動しない原因）

（寒冷地仕様での水抜きができず、凍結破損による水漏れの原因）

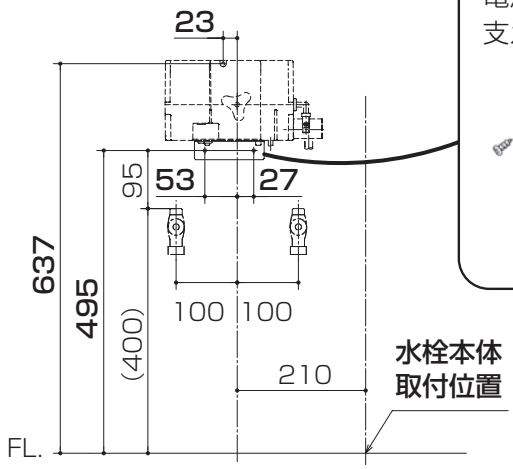
■電源ボックス（電源ボックス支え金具）の取り付け位置

※カウンター高さ850の場合。カウンター高さに対応して、位置は変わります。

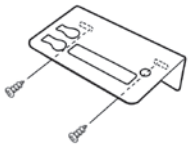
水栓左右取り付けの場合



水栓センター取り付けの場合



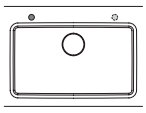
電源ボックス
支え金具



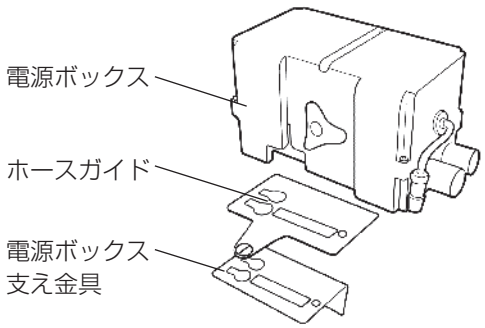
トラス ⊕
φ4×15

2. 電源ボックスを電源ボックス支え金具にのせて仮置きする。

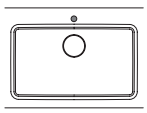
水栓左右取り付けの場合



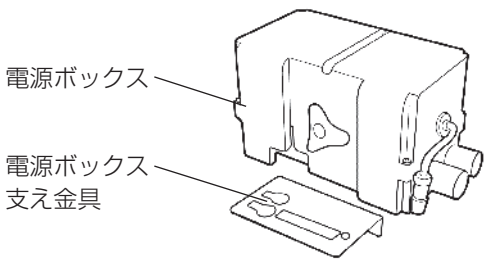
電源ボックス支え金具と電源ボックスの間にホースガイドを挟む。

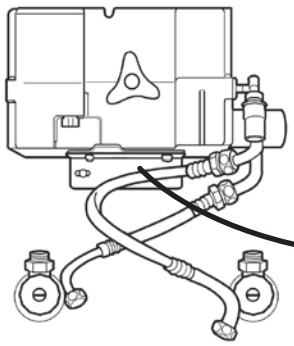


水栓センター取り付けの場合

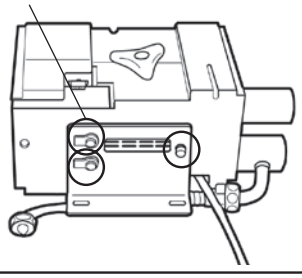


電源ボックス支え金具の上に電源ボックスを置く。





電源ボックス裏の突起を電源ボックス支え金具の穴に合わせてください。

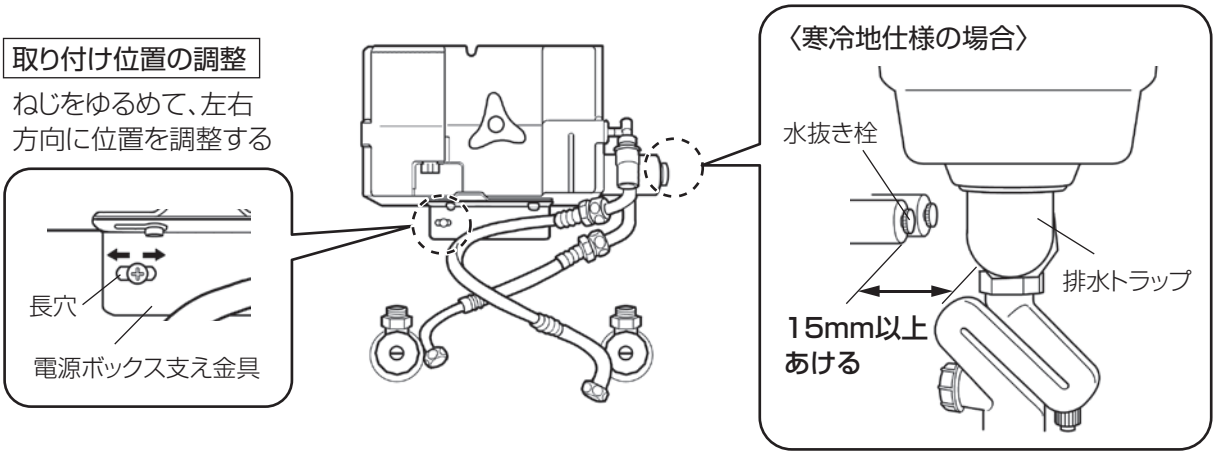


※電動ドライバーが入らない場合は、φ3の下穴をあけ、手締めで確実に締めてください。

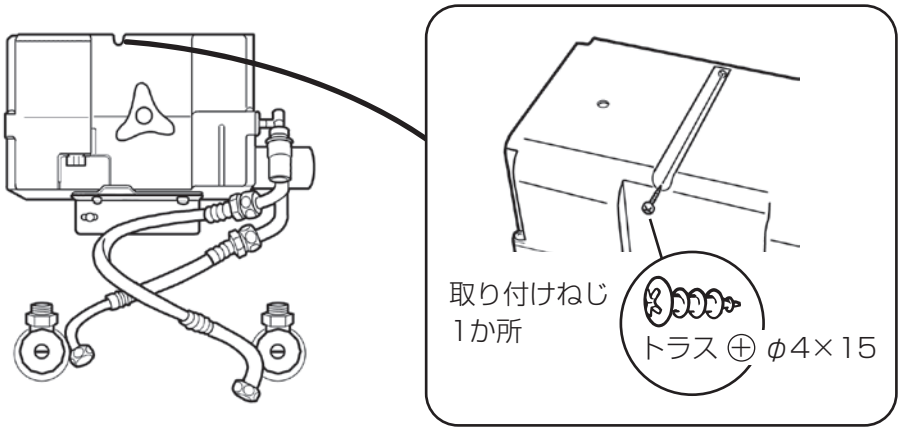
※下記のような場合は、電源ボックス（電源ボックス支え金具）の取り付け位置を調整してください。
（調整した後は、確実に取り付けてください。）

●給水・給湯管の立ち上げ位置（止水栓接続位置）が指定位置から外れている場合
（給水・給湯ホースが届かないおそれがあります。）

●給水・給湯ホースの水抜き栓（寒冷地仕様のみ）が、排水トラップやフロアユニットの側板に近い場合
（水抜き栓が取り外せずに、水抜きが十分にできないおそれがあります。）

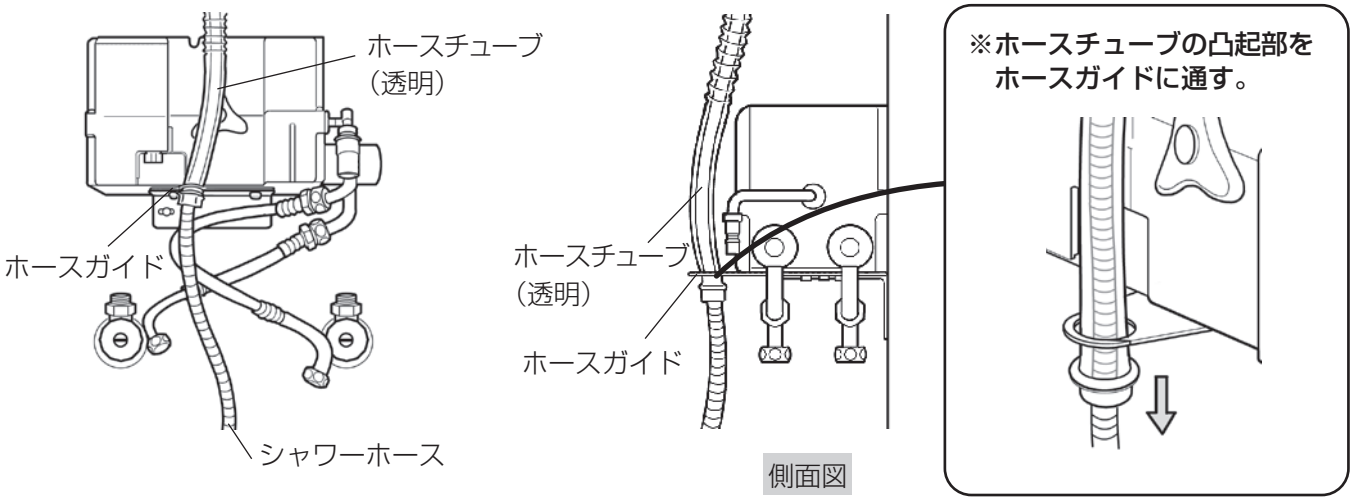


3. 電源ボックスをキャビット背板にねじで固定する。



水栓左右取り付けの場合

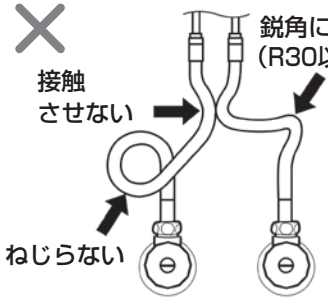
4. シャワーホースをホースガイドに通す。



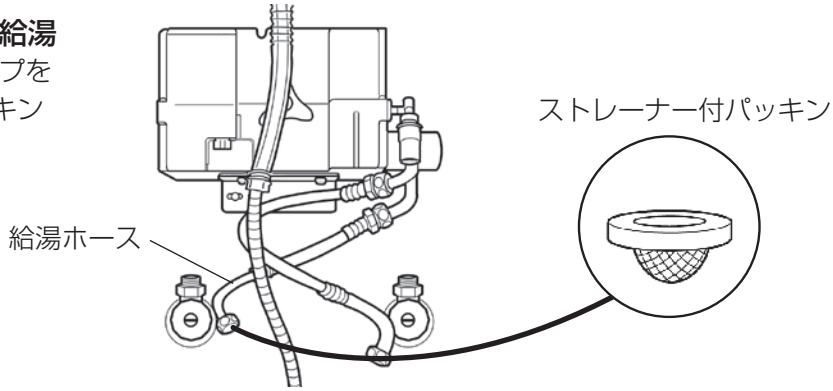
5 ホース接続

⚠注意

禁止	上下戻り配管をしない （ウォーターハンマーなどで給湯･給水ホースが振動した際、屈曲部から漏水による財産損害発生の原因）	鋭角に曲げたり、根元で曲げたりねじったりしない （亀裂や破損をおこし、漏水による財産損害発生の原因）	必ず守る	給湯･給水ホースの接続が確実にされているか確認する （給湯･給水ホースが外れ、、漏水による財産損害発生の原因）



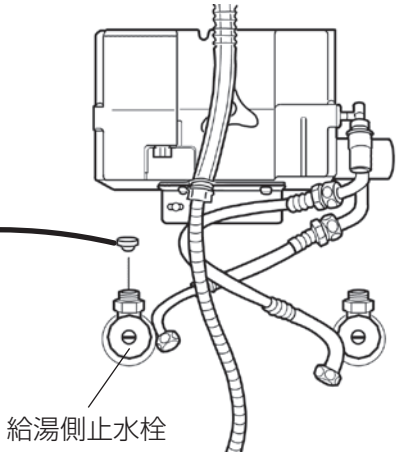
1. **電源ボックス奥から出ている給湯ホース**の先端についているテープをはがして、ストレーナー付パッキンを取り出す。



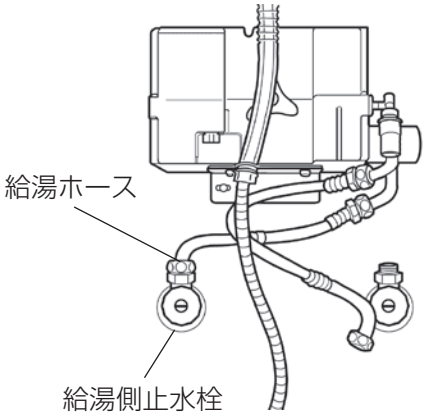
2. ストレーナー付パッキンを給湯側止水栓に入れる。

※ストレーナー付パッキンの向きに注意してください。

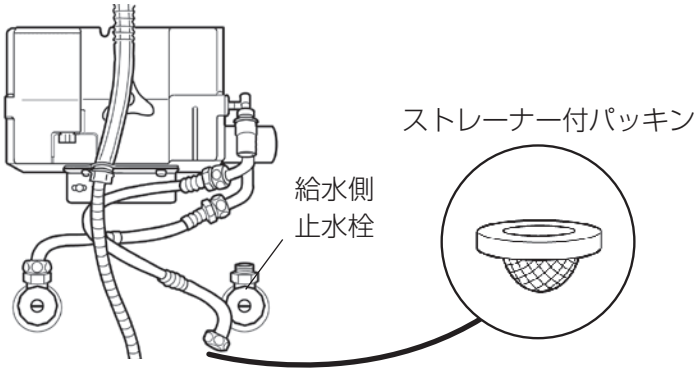
正しく取り付けられていないとごみが詰まりやすくなり、流量が少なくなることがあります。



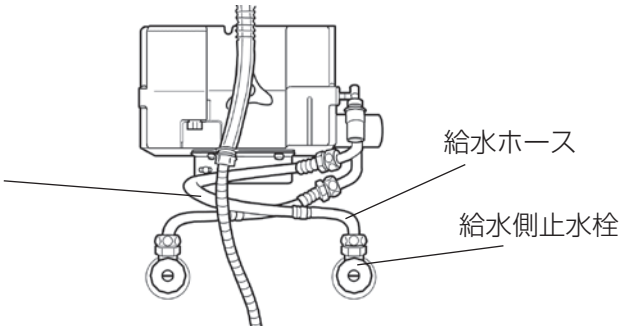
3. 給湯ホースを給湯側止水栓に接続する。



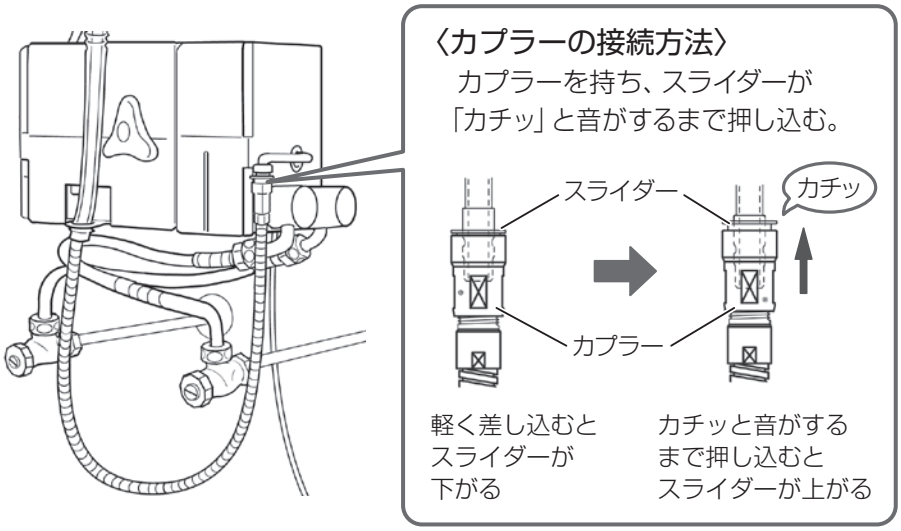
4. **電源ボックス手前から出ている給水ホース**
先端についているテープをはがして、ストレーナー付パッキンを取り出し、給水側止水栓にストレーナー付パッキンを入れる。
※給湯ホース接続の場合の1･2と同様です。



5. 給水ホースを給水側止水栓に接続する。
※電源ボックス下にS字にくねらせてください。



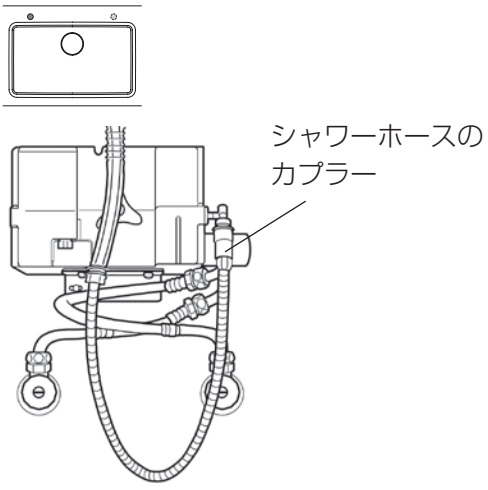
6. シャワーホースのカプラーを電源ボックスのシャワーホース継手部に接続する。



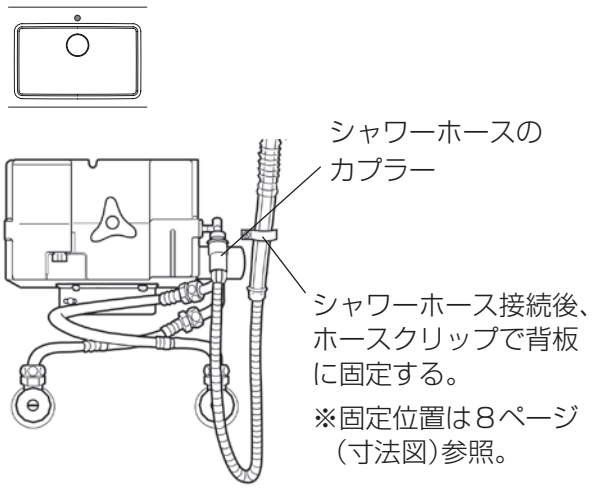
⚠注意

必ず守る	**シャワーホース接続後、スライダーが上がっていること、カプラーを真下に引っ張って外れないことを確認する** （漏水による財産損害発生の原因）

水栓左右取り付けの場合

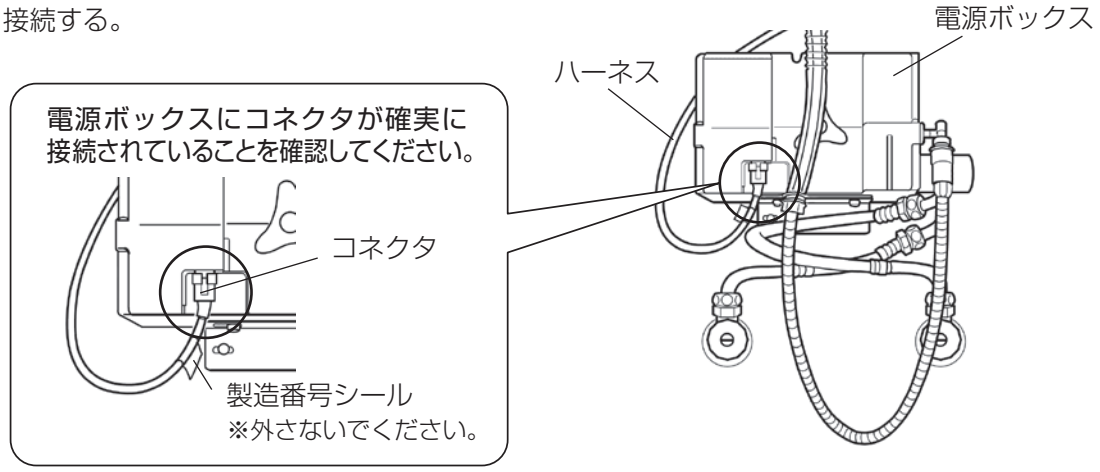


水栓センター取り付けの場合

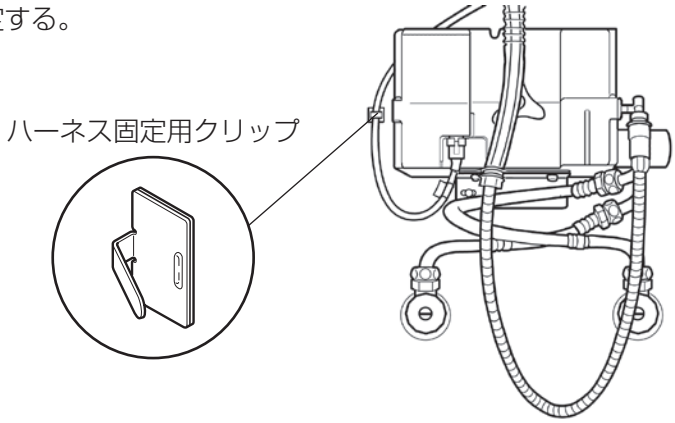


施工のしかた

7. ハーネスのコネクタを左側から電源ボックスに接続する。



8. ハーネス固定用クリップを背板に貼りつけ、ハーネスを固定する。



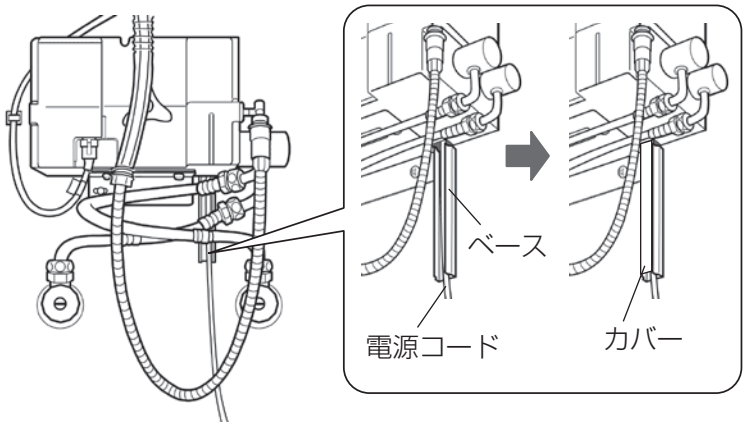
⚠注意

必ず守る

ハーネスは、給水・給湯ホースと接触しないようにする

（故障や感電、火災の原因）

9. 電源コード後ろの背板に、配線カバーのベースを粘着テープで背板に貼り、電源コードを通してカバーを取り付ける。



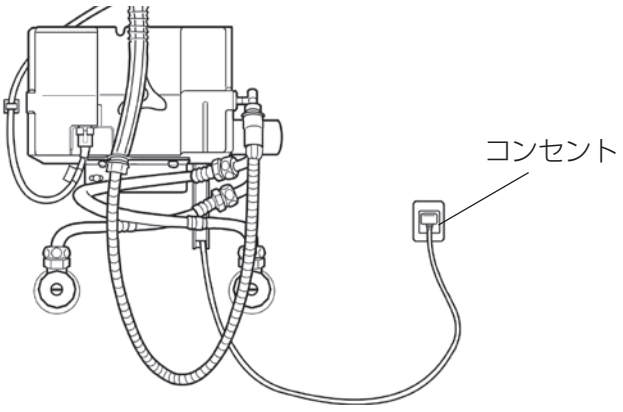
10. 電源プラグをコンセントに差し込む。

⚠注意

必ず守る

電源コードは、給水・給湯ホースと接触しないようにする

（故障や感電、火災の原因）



施工後の確認

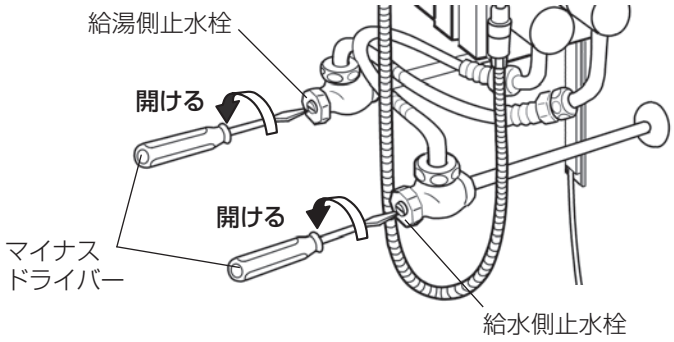
1 通水確認

水栓本体を取り付けた後、通水して湯水の出し止めを5回以上繰り返し、水漏れの確認をする。

⚠注意

必ず守る	**水栓本体取り付け後、配管接続部および水栓からの水漏れがないことを確認する** （漏水による財産損害発生の原因）

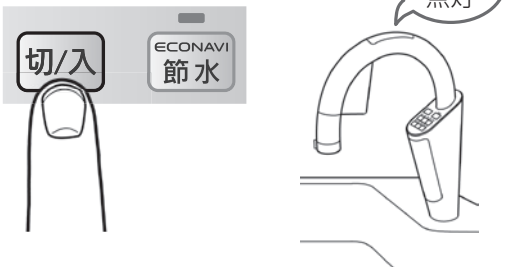
1. 水道の元栓および給湯側・給水側の止水栓（2か所）を開ける。



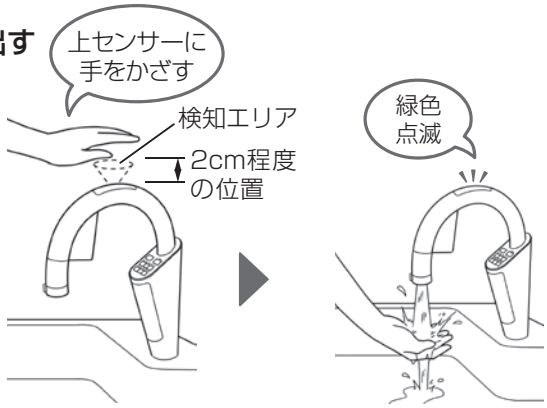
2. 通水していることを確認する。

「通常モード」

① 電源を入れる



② 湯水を出す



下記の場合、自動で水が止まります

- 5秒以上、手や物が上センサーの検知エリア内にあるとき
- 10分間連続で湯水が出ているとき（止め忘れ防止）

※流量/温度調整のしかたは18・19ページをご参照ください。

⚠注意

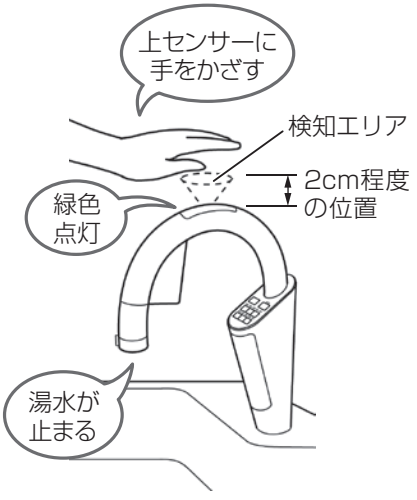
必ず守る	**ご使用の前に適温であることを確かめる** （高温の湯が出てやけどの原因）

③ 湯水を止める

お願い

検知エリアに障害物を置かないでください

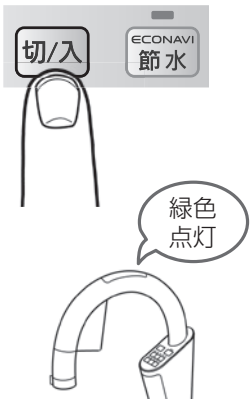
誤検知の原因となります。



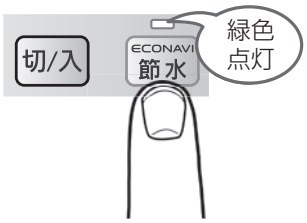
④ 電源を切る

「節水モード」

① 電源を入れる



② 節水ボタンを押す



③ 手をかざす

10分間連続で湯水が出ると、
自動で止まり、「通常モード」
に切り替わります。
（止め忘れ防止）

④ 手を離す

お願い

検知エリアに障害物を置かないでください。

誤検知の原因となります。

⚠注意

必ず守る	**ご使用の前に適温であることを確かめる** （高温の湯が出てやけどの原因）

⑤ 節水モードを解除する

節水ボタンを押す

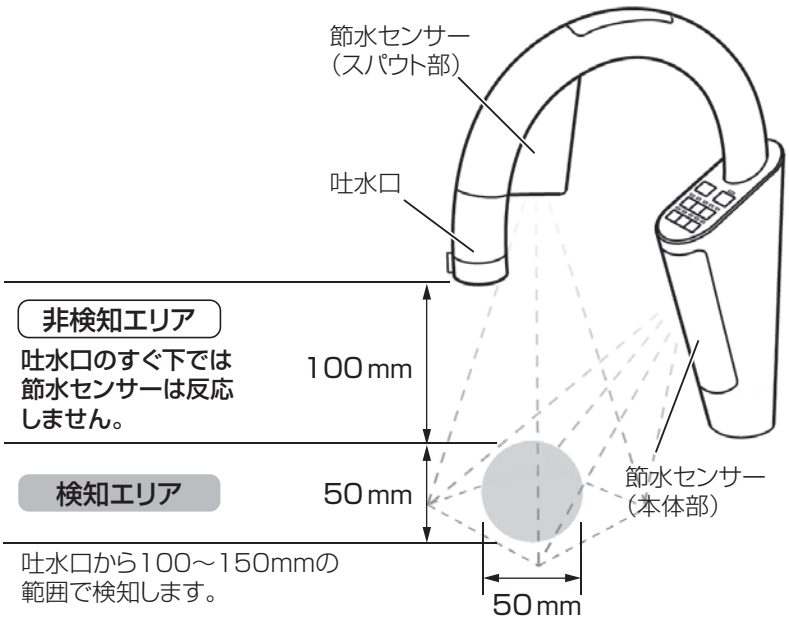
または

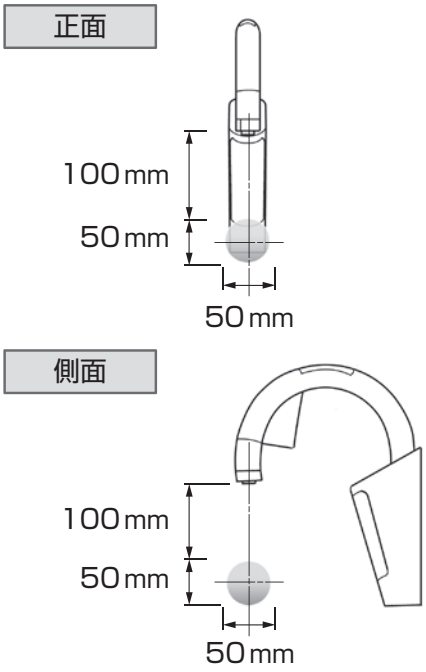
上センサーに手をかざす

待機状態で15分間経過しても
通常モードに切り替わります。

⑥ 電源を切る

節水センサーの検知エリア



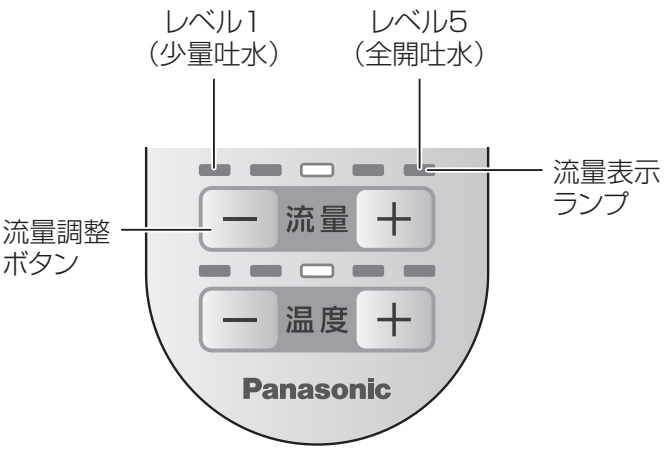


●シンクや照明器具の種類、部屋の明るさによって節水センサーの感度が異なります。
●節水センサーの感度調整が必要な場合は、操作パネルボタンで調整してください。
（詳しくは取扱説明書17ページをご参照ください。）

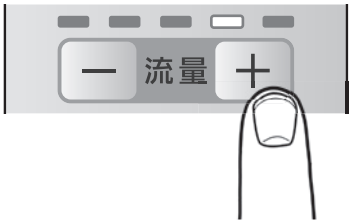
2 流量調整

流量はレベル1からレベル5の5段階調整ができます。
止水栓で流量を調整する。

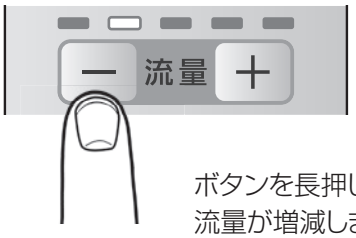
基本的な使いかた



■流量を増やしたい



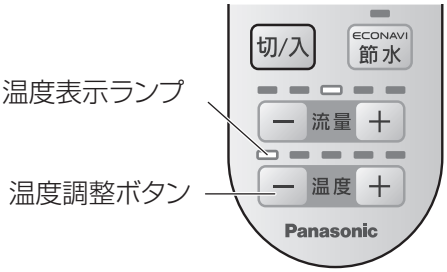
■流量を減らしたい



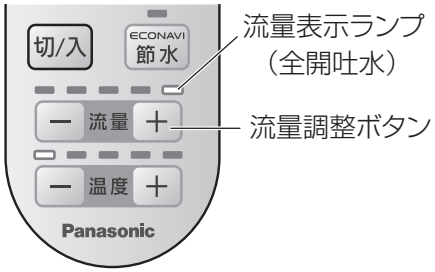
ボタンを長押しすると連続で
流量が増減します。

止水栓による流量調整

① 温度調整ボタンを押して、ランプ位置を水側（左端）にする



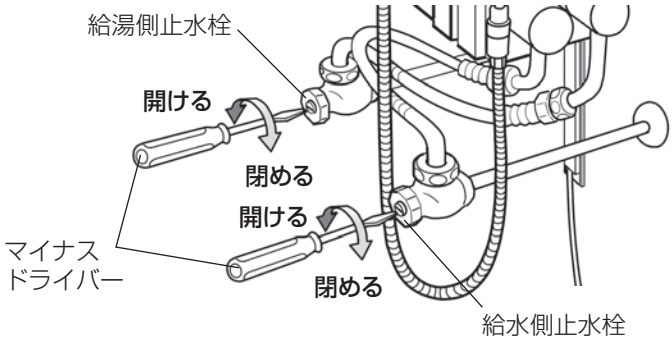
② 流量調整ボタンで全開吐水状態にする



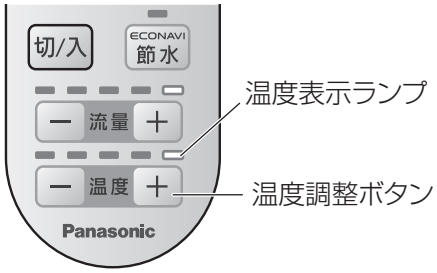
③ 給水側止水栓をまわして、流量を調整する

シャワー吐水の流量を約8L/minにする。

※流量調整の目安
1リットルの容器をいっぱいにするのに
約7～8秒



④ 温度調整ボタンを押して、ランプ位置を湯側（右端）にする



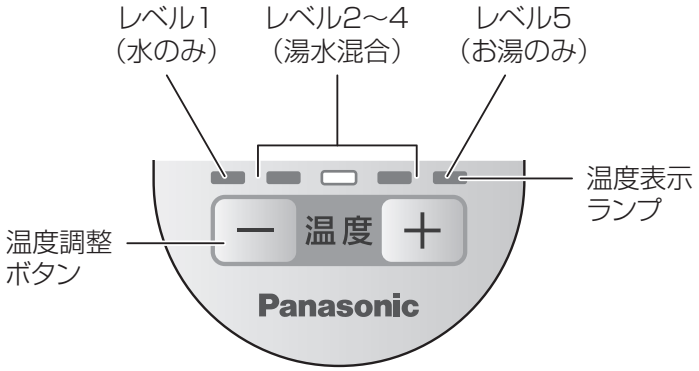
⑤ 給湯側止水栓をまわして、流量を調整する

シャワー吐水の流量を約8L/minにする。

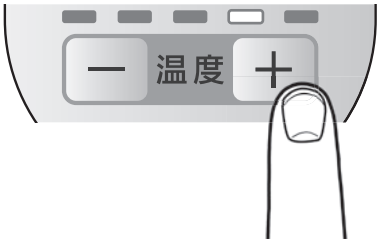
※流量調整の目安
1リットルの容器をいっぱいにするのに
約7～8秒

3 湯温調整

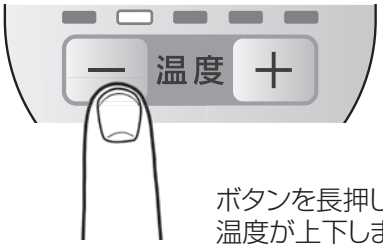
温度はレベル1からレベル5の5段階調整ができます。
湯に手をかざして、湯温が適正であるか確認する。



■温度を上げたい



■温度を下げたい



ボタンを長押しすると連続で
温度が上下します。

節水モードでは、安全のため高温のお湯（約55℃以上）が出ないように設定されています。

高温のお湯（約55℃以上）を出すと、お湯が止まり、温度表示ランプが点滅します。
給湯温度を50℃以下に設定してください。

高温のお湯（約55℃以上）をお使いになる場合は、通常モードに設定してください。

※通常モードでも高温のお湯（約55℃以上）を使っている間は温度表示ランプが点滅します。
（水温が約40℃以下に下がると点灯状態になります。）

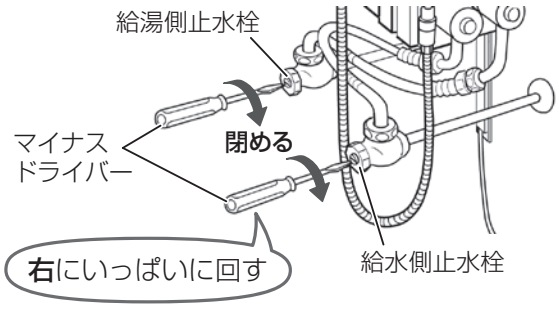
■「通常モード」への切り替えかた

（上センサーに手をかざす） または （節水ボタンを押す）

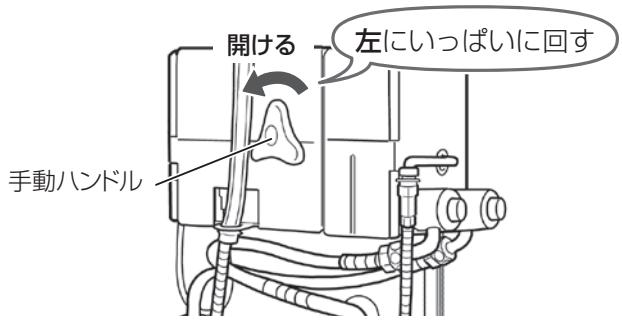
4 寒冷地での水抜きのしかた

給水元に水抜き栓がある場合は、元栓を閉めて配管の水抜き作業を行ってから水栓の水抜きを行ってください。

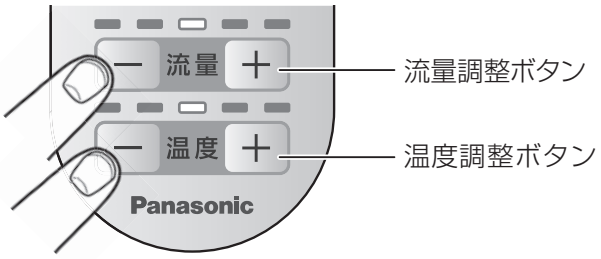
① 水側・湯側の止水栓の水量調整弁を閉じる



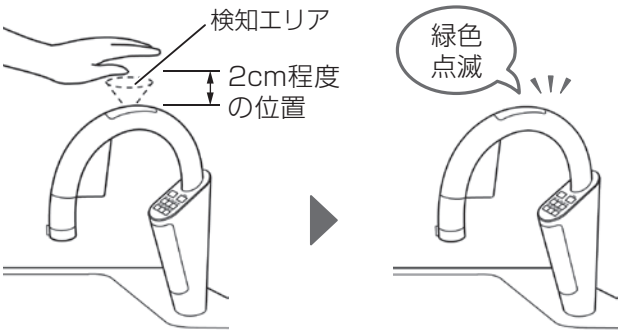
② 手動ハンドルを左いっぱいに開ける



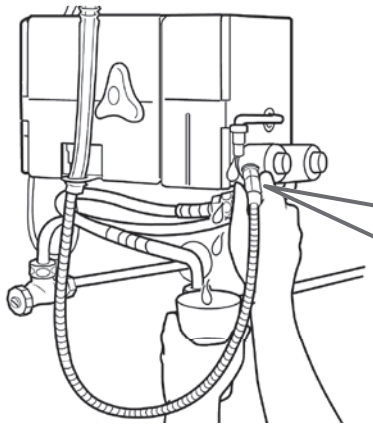
③ 流量、温度をレベル3に合わせる



④ 上センサーに手をかざして吐水状態にする

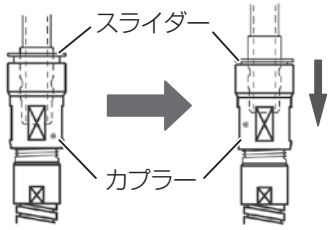


⑤ シャワーホースを外し水を抜く



水を抜くときは水受けやタオルなどで水を受けてください。

スライダーを押し込みながらカプラーを外す。

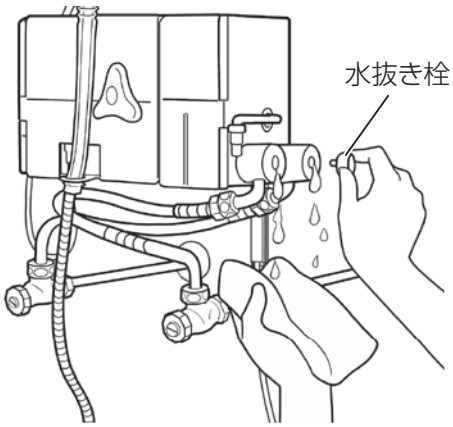


取り外し後、カプラーを下に向けて水を抜く。

約55mlの水が出ます。

⑥ 電源ボックスの水抜き栓を左に回して取り外す

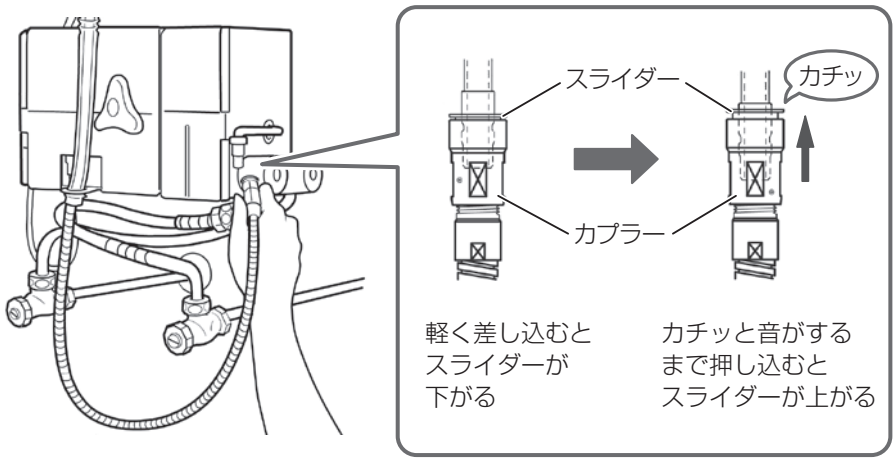
水抜き栓は2か所（給湯側·給水側）あります。



水を抜くときはタオルなどで水を受けてください。約50mlの水が出ます。

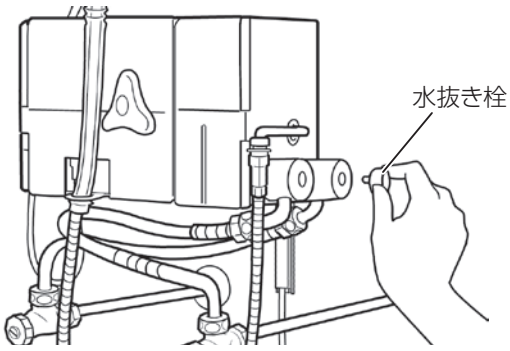
⑦ シャワーヘッドを振って中の水を抜く

⑧水が抜けたらシャワーホースを取り付ける

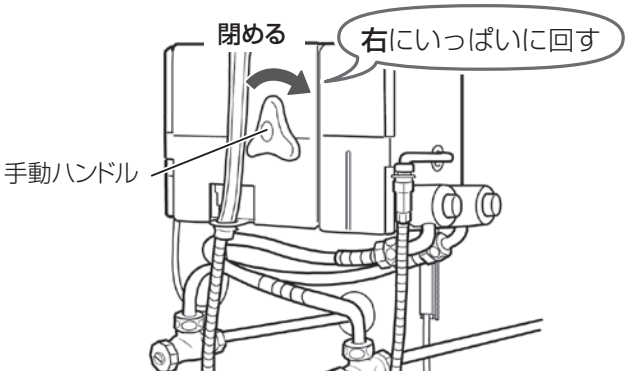


⑨ 水が抜けたら水抜き栓を右に回して取り付ける

水抜き栓は2か所（給湯側･給水側）あります。

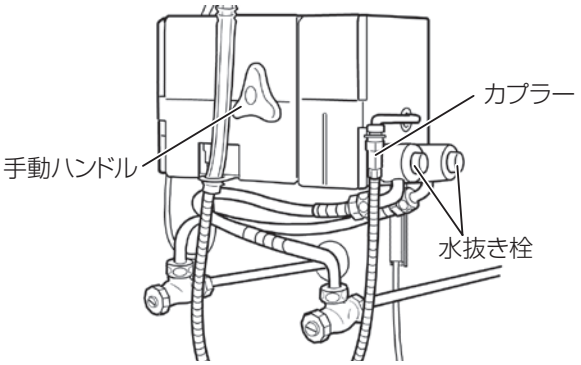


⑩ 手動ハンドルを右いっぱいに閉める



■通水再開のしかた

- ●必ず、電源ボックスの水抜き栓および手動ハンドルが閉まっていることを確認してください。
- ●シャワーホースが正しく取り付けられて、カプラー部分から水漏れがないことを確認してください。
- ●電源を切って（水が出ない状態にして）から通水を再開してください。



通水を再開しても水が出ない場合

電源を入れ、上センサーに手をかざして（吐水状態にして）、しばらくお待ちください。
これは水栓内に残った水滴が凍りついて起こる現象です。異常ではありません。

5 こんなときは

こんなとき	お調べいただくところ	このように処理してください	参照ページ
水が出ない	止水栓は十分に開いていますか。	止水栓を開ける	16
	電源プラグはコンセントに差し込まれていますか。	電源プラグをコンセントに差し込む	15
	コネクタは確実に差し込まれていますか。	コネクタを差し込む	15
	高温のお湯（約55℃以上）を出そうとしていませんか。 ※本製品は安全のため節水モードでは、高温のお湯（約55℃以上）は出ないように設定されています。 （温度調整のランプが点滅していませんか。）	節水モードを解除して、通常モードで再度通水する	19
	センサーの検知エリア内に手が入っていますか。	センサーの検知エリア内に手を入れる 節水センサーの感度を調整する	16・17 （取扱説明書17）
	吐水口にごみなどは詰まっていませんか。	吐水口を清掃する	26
	止水栓のストレーナー付パッキンにごみなどは詰まっていませんか。	止水栓のストレーナー付パッキンを清掃する	25
	断水中ではありませんか。	回復（水道が供給されるの）を待つ	—
	センサー表面が汚れていませんか。	センサー表面の汚れを取る	—
	センサーの前に障害物がありませんか。	障害物を取り除く	16・17
	停電中ではありませんか。	回復（電気が供給されるの）を待つ または、手動ハンドルを回す	20
水の出が少ない	シャワーホースはねじれていませんか。	シャワーヘッドを引き出して、シャワーホースのねじれを戻す	—
	吐水口に水あかなどの汚れが付着していませんか。	吐水口を清掃する	26
	止水栓は十分に開いていますか。	止水栓を開ける	16
	止水栓のストレーナー付パッキンにごみなどは詰まっていませんか。	止水栓のストレーナー付パッキンを清掃する	25
	能力切り替え式ガス給湯器と組み合わせてご使用の場合、適正能力にセットされていますか。	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
	吐水口の部品が正しく取り付けられていますか。	吐水口の部品を正しく取り付ける	26
水が止まらない	手動ハンドルが開いていませんか。	電源ボックスの手動ハンドルを閉める	20
	吐水口に水あかなどの汚れが付着して、シャワー吐水が広がっていませんか。	吐水口を清掃する	26
	センサー表面が汚れていませんか。	センサー表面の汚れをとる	—
	センサーの検知範囲内に手や障害物がありませんか。	手や障害物を検知範囲の外に移動する	16・17
	コネクタは確実に差し込まれていますか。	コネクタを差し込む	15
	吐水口の部品が正しく取り付けられていますか。	吐水口の部品を正しく取り付ける	26
	日光が当たっていませんか。	日光を遮る 節水センサーの感度を調整する	16 （取扱説明書17）

こんなとき	お調べいただくところ	このように処理してください	参照ページ
水が出たり止まったりを繰り返す	センサー表面が汚れていませんか。	センサー表面の汚れをとる	—
	センサーの検知エリア内に手が入っていますか。	センサーの検知エリア内に手を入れる 節水センサーの感度を上げる	16・17 （取扱説明書17）
シャワーホースの出し入れが固い	シャワーホースはねじれていませんか。	シャワーヘッドを引き出して、シャワーホースのねじれを戻す	—
シャワーホースが戻らない	シャワーホースが止水栓などにひっかかっていませんか。	シャワーホースの引っ掛かりを戻す	—
止水したとき、吐水口から水が漏れる	シャワーホース内の残留水が落ちています。 故障ではありません。	吐水口を清掃する	26
吐水がきれいに出ない	吐水口に水あかなどの汚れが付着していませんか。	吐水口を清掃する	26
吐水口から異物が出る	吐水口に水あかなどの汚れが付着していませんか。	吐水口を清掃する	26
吐止水時に音がする（シャワーヘッドが振動する）	止水栓を開けすぎていませんか。	止水栓を絞って流量を調整する	18
	給水圧が高くないですか。	市販の減圧弁で給水圧を0.2～0.3MPaに減圧する	—
温度調整がうまくできない	湯側･水側の止水栓は十分に開いていますか。	止水栓を開けて調整する	18
	給湯器から十分な湯がきていますか。	給湯器の設定温度、運転を確認する	—
	他所の水栓（食洗機など）を同時に使用していませんか。	他所の水栓との同時使用は避ける	—
	吐水口にごみなどは詰まっていませんか。	吐水口を清掃する	26
	止水栓のストレーナー付パッキンにごみなどは詰まっていませんか。	止水栓のストレーナー付パッキンを清掃する	25
高温しか出ない	水側の止水栓は十分に開いていますか。	水側の止水栓を開ける	16
低温しか出ない	湯側の止水栓は十分に開いていますか。	湯側の止水栓を開ける	16
操作パネルのランプが点滅して水が出ない	24ページの表でランプの点滅状況を確認してください。		24

■操作パネルのランプが点滅して水が出ない

症　状	原　因	このように処理してください
 「流量表示」 ランプが点滅（速）	流量・温度調整機能のエラー	コンセントから電源プラグを抜き、ランプが消灯してから電源プラグを差し直す。
 「流量表示」「温度表示」 ランプが交互に点滅（速）	コネクタの接続エラー	コンセントから電源プラグを抜き、コネクタが確実に接続されていることを確認してから、コンセントに電源プラグを差し直す。
 「節水」「流量表示」「温度表示」 ランプが全て点滅（速）	電源ボックス内で水漏れしている	コンセントから電源プラグを抜き、水側・湯側の止水栓を閉める
 「温度表示」 ランプが点滅（速）	温度検知センサー（サーミスター）の異常	コンセントから電源プラグを抜き、水側・湯側の止水栓を閉める ※電源を入れ直すことで、通常モードで、水のみ使用できます。

電源プラグを差し直しても、操作パネルのランプが点滅し続けて水が出ない場合は、
止水栓を閉めて適切な処置をしてください。

ストレーナー付パッキンの清掃のしかた

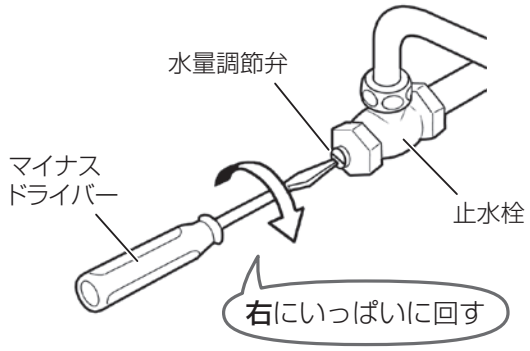
ストレーナー付パッキンにごみや水あかなどが詰まると、水の出が少なくなるなどの現象が起こります。

⚠注意

必ず守る

- **給水・給湯ホースの取り付けは、確実に行う**
  （漏水による財産損害発生の原因）
- **止水栓や給湯配管に触れるときは配管が十分冷めてから行う**
  （やけどの原因）

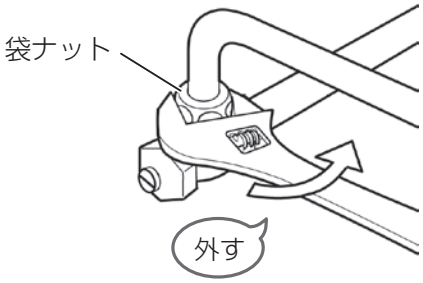
① 水側・湯側の止水栓の水量調整弁を閉める



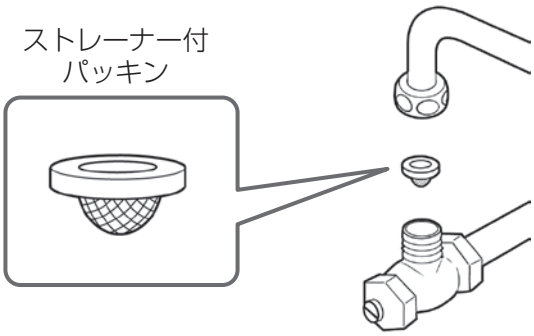
② 上センサーに手をかざして吐水状態で水が出ないことを確認する

確認後に、再度上センサーに手をかざして止水状態にする。

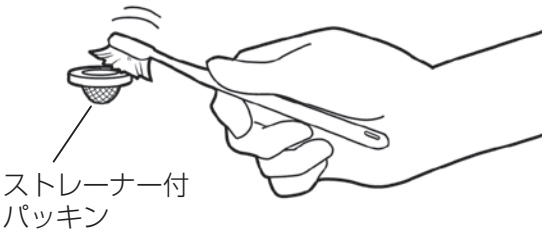
③ モンキーレンチなどで水側・湯側ホースの袋ナットを外す



④ ストレーナー付パッキンを外す

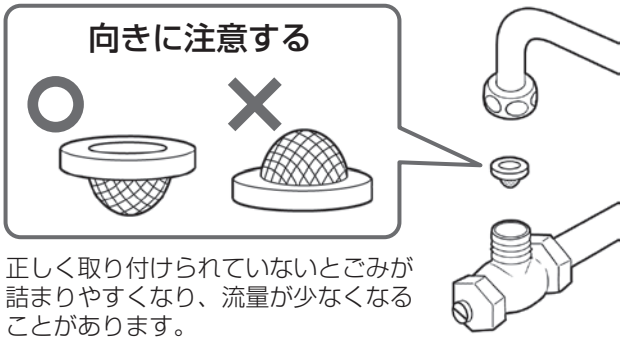


⑤ ごみを歯ブラシなどでこすり落とす



お願い 洗剤を使用しないでください。

⑥ ストレーナー付パッキン、袋ナットの順に取り付ける



正しく取り付けられていないとごみが詰まりやすくなり、流量が少なくなることがあります。

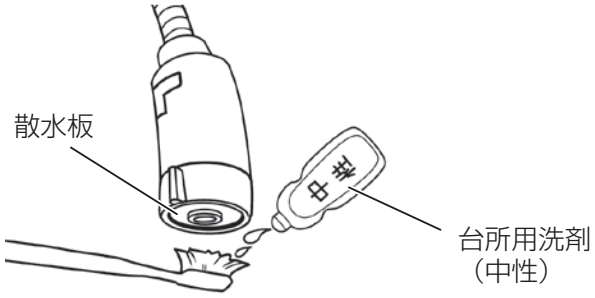
吐水口（ストレーナー、散水板）の清掃のしかた

●ストレーナーにごみや水あかなどが詰まると、水の出が少なくなったり、吐水の乱れや水切れが悪いなどの現象が起こります。

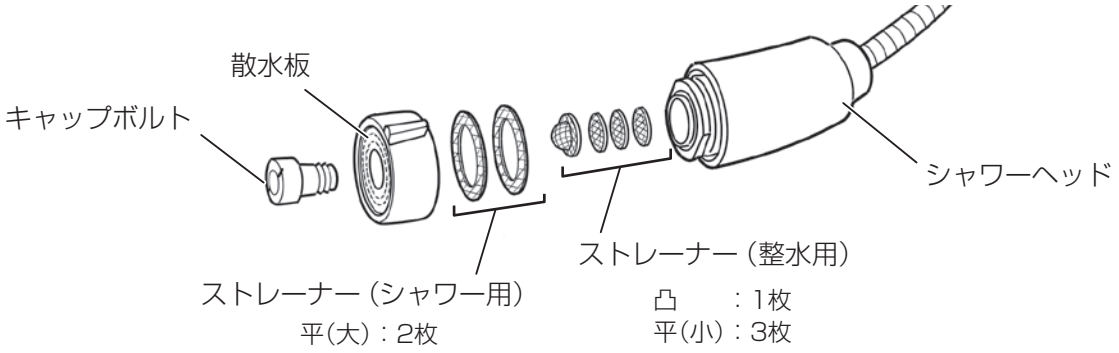
●散水板に水あかや汚れがつくと、吐水が乱れ、節水モード使用時にセンサーが誤作動して水が止まらなくなる場合があります。

1 分解せずに清掃する

散水板を台所用洗剤（中性）をつけたブラシでこすり、水洗いする



2 分解して清掃する（ 1 でも直らない場合）



お願い

●分解するときは、部品を紛失しないように注意してください。

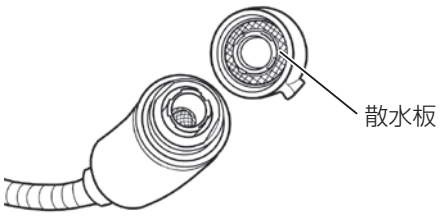
●シャワーヘッド内部に、ストレーナーなどの部品が残って出てこない場合は、手で受けながらシャワーヘッドを振るなどして取り出してください。

※ストレーナーが出てこない場合は、マイナスの精密ドライバーや安全ピンなどで、ストレーナーを引っ掛けて取り出してください。

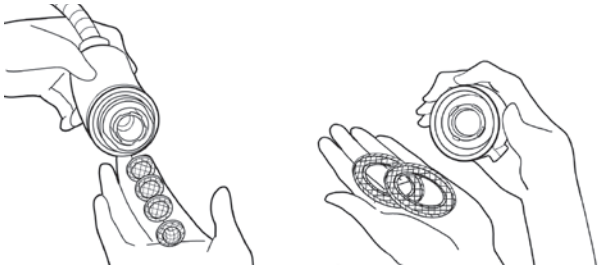
●取り付け後、水を出して接続部から水漏れがないか確認してください。

① キャップボルトを外す

② 散水板を外す

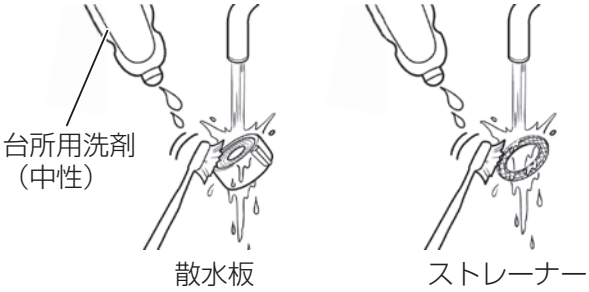


③ ストレーナーを外す

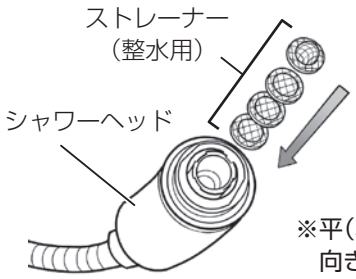


④ 散水板、ストレーナーを洗う

台所用洗剤（中性）をつけたブラシでこすり、水洗いする

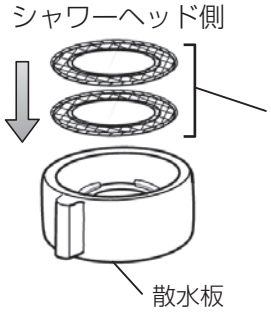


⑤ ストレーナー（整水用）をシャワーヘッドにセットする



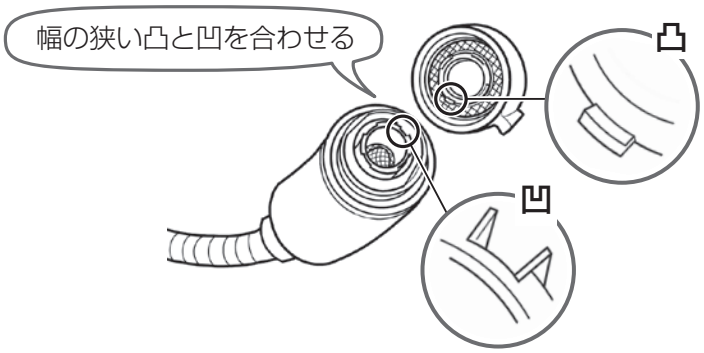
※平（小）のセット時の向きはありません。

⑥ ストレーナー（シャワー用）を散水板にセットする

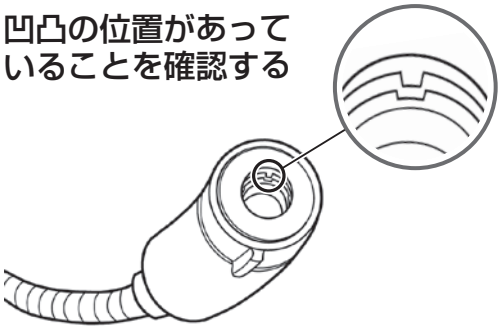


※平（大）のセット時の向きはありません。

⑦ 散水板をシャワーヘッドに取り付ける



凹凸の位置があっていることを確認する



⑧ キャップボルトを取り付ける

止水時の水滴について

上記の清掃後、水を止めた直後にシャワーから水がポタポタ落ちることがありますが、これはシャワーヘッドの中の残留水です。異常ではありません。

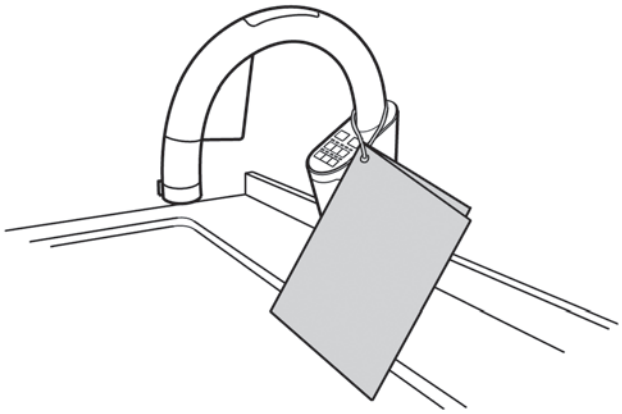
6 最終点検チェック

全ての作業の完了後に、下記をチェックしてください。

No.	項　目	内　容	チェック
1	傷・汚れ	表面に傷や汚れがないか確認する。	
2	がたつき・ゆるみ	水栓本体取り付け部(裏面)の固定ねじのがたつき、ゆるみやシャワーホース接続部のゆるみ、ひっかかりがないか確認する。	
		水栓本体が左右にひっかかりなく回転するか確認する。	
3	流量・湯温	止水栓をまわして、水側／湯側それぞれの流量を8L/minに調節する。(18ページ)	
4	水漏れ	水栓本体およびシャワーホースなどの各接続部から、水漏れがないか確認する。	
5	清掃	本体を柔らかいきれいな布またはスポンジで水洗いし、かわいた布で水滴をふき取る。吐水口(ストレーナー・散水板)を清掃する。	

7 引き渡し

取扱説明書に従って、取り扱い方法をお客様にご説明ください。
保証書（取扱説明書に添付）に必要事項を記入してお客様にお渡しください。
取扱説明書と、使いかたタグを水栓本体に引っ掛けてお客様にお渡しください。



パナソニック株式会社　水廻りシステムビジネスユニット
〒571- 8686 大阪府門真市大字門真1048番地
© Panasonic Corporation 2012
D0612-0